

日本フェアプレイ大賞2021大賞受賞者
葛西海碧さんにインタビュ!
 小学1年生で出会ったサッカーに、大きな夢を描いて

**サッカーを通じて知った
 挨拶の大切さ**

今回は、「日本フェアプレイ大賞2021」を受賞した葛西海碧さんに話を聞きました。葛西さんは小学1年生の時に友達に誘われて、



試合をする葛西海碧さん(35番)

地元のスपोर्टス少年団でサッカーを始め、その面白さに夢中になりました。中学校でもサッカー部に所属。入部すると挨拶を徹底させられたのです。最初は、「どうして挨拶しなければいけないんだろ」と感じていたのですが、しつかりと挨拶をしているうちに、友達だけでなく、先輩や大人の人もちゃんと話せるようになりました。挨拶は、いろんな人とのコミュニケーションを結ぶ第一歩だったのです。ある試合で、葛西さんが大きなチャンスでシュートを外して落ち込んでいたと、下を向くのは誰でもできる。前を向くのはお前にしかできないぞ」と監督から言葉をかけられました。以来、例えばミスしても、その言葉を思い出し、次に向かってまたチャレンジするようになっていました。

**熱い戦いの中にも、
 相手への思いやりが大切**

「日本フェアプレイ大賞2021」のエピソード(漫画を見てね)は、すぐに頭に浮かんだとのこと。サッカーでは、ぶつかり合うのはよくあることですが、その時の相手選手の行動が、とても印象的だったようです。葛西さん自身も、激しく当たり相手を倒してしまった時には、手を差し伸べて起こすように心がけているそうです。そうすることでお互いに嫌な気持ちを引きずることなく、プレーに全力で集中できるようです。葛西さんは、今年4月から高校に進学しサッカー部に入部。部員数70人の中で、トップチームに入る事が現在の目標です。そして将来は、アフリカの恵まれない子供達に、サッカーの楽しさを伝えたいという大きな夢を持って、毎日一生懸命に練習をしています。



日本フェアプレイ大賞2021大賞受賞者 葛西海碧さん

今年もやります! 日本フェアプレイ大賞

スポーツしている時や普段の生活の中で、自分自身が行ったり見たりしたフェアプレーなど、みんなに伝えたいフェアプレーエピソードを募集する「日本フェアプレイ大賞」。今年も開催しますので、「これってフェアプレーだな!」と思うことがあったらしっかりと覚えておいて、募集が始まったらぜひ送ってください。大賞に選ばれた話は、漫画にしてこのフェアプレイニュースで掲載します。

昨年度の大賞作品が、漫画になったよ!



正々くん <先生へ>

「日本フェアプレイ大賞2022」の詳細が決定しましたら、JSPOの「フェアプレイで日本を元気にキャンペーン」特設サイトにて告知いたします。ぜひ、応募へのご協力をお願いいたします。



光り輝く右手

札幌市立前田中学校3年生(当時) 葛西海碧さん

